

令和7年度 かながわ学びづくり推進地域研究委託事業 研究委託地域と研究テーマ

研究委託地域	研究テーマ
藤沢市	小・中学校の9年間で育成する子ども像の共有・実現
茅ヶ崎市	未来を拓く力をはぐくむ学校教育の充実～学びの質を高める学校教育の充実～
三浦市	郷土三浦に誇りをもち、これからの社会をたくましく生き抜く人材の育成
葉山町	9年間を見通した系統的な学び
寒川町	「確かな学力を身につける教育の推進」～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～
綾瀬市	「9年間を見通した豊かな学びを目指して ～授業スタイル（振り返り）と家庭学習の充実の共通化を通して～」
愛川町	「夢に向かって自立して生きる児童・生徒の育成」
清川村	幼・小・中の12年間を見通し確かな学力と豊かな心の育成 ～輝き・愛着・誇りを持って未来を支える「清川っ子」の育成を目指して～
秦野市	地域との協働を通し、心身ともに調和がとれ、たくましく生きる子どもの育成
南足柄市	夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子どもの育成 ～「確かな学力」の向上をめざした指導の工夫・改善～
大井町	「児童・生徒を中心に考える授業づくり」～“学び”の質を高める授業改善～
松田町	「質の高い学びの創造」～自立・創造・共生の視点から～
山北町	社会の中で他者とよりよく関わりながら 自分らしく生きることができると人間力と社会力の育成
真鶴町	伝え合い・学び合いを通して育む学びと豊かな心

各地域・推進校の研究の概要を、令和7年度かながわ学びづくりシンポジウムで紹介しました。
 神奈川県ホームページにも掲載しています。 [\(かながわ 学びづくり推進地域で検索。\)](#)



令和8年度は、16市町村（鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、逗子市、三浦市、葉山町、寒川町、愛川町、清川村、秦野市、伊勢原市、南足柄市、大井町、松田町、山北町、真鶴町）が、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業の研究委託推進地域です。

また、令和8年度かながわ学びづくりシンポジウムは、令和9年1月に開催する予定です。

問合せ先：神奈川県教育委員会 子ども教育支援課 教育指導グループ
 電話：045-210-8217（直通）



かながわの

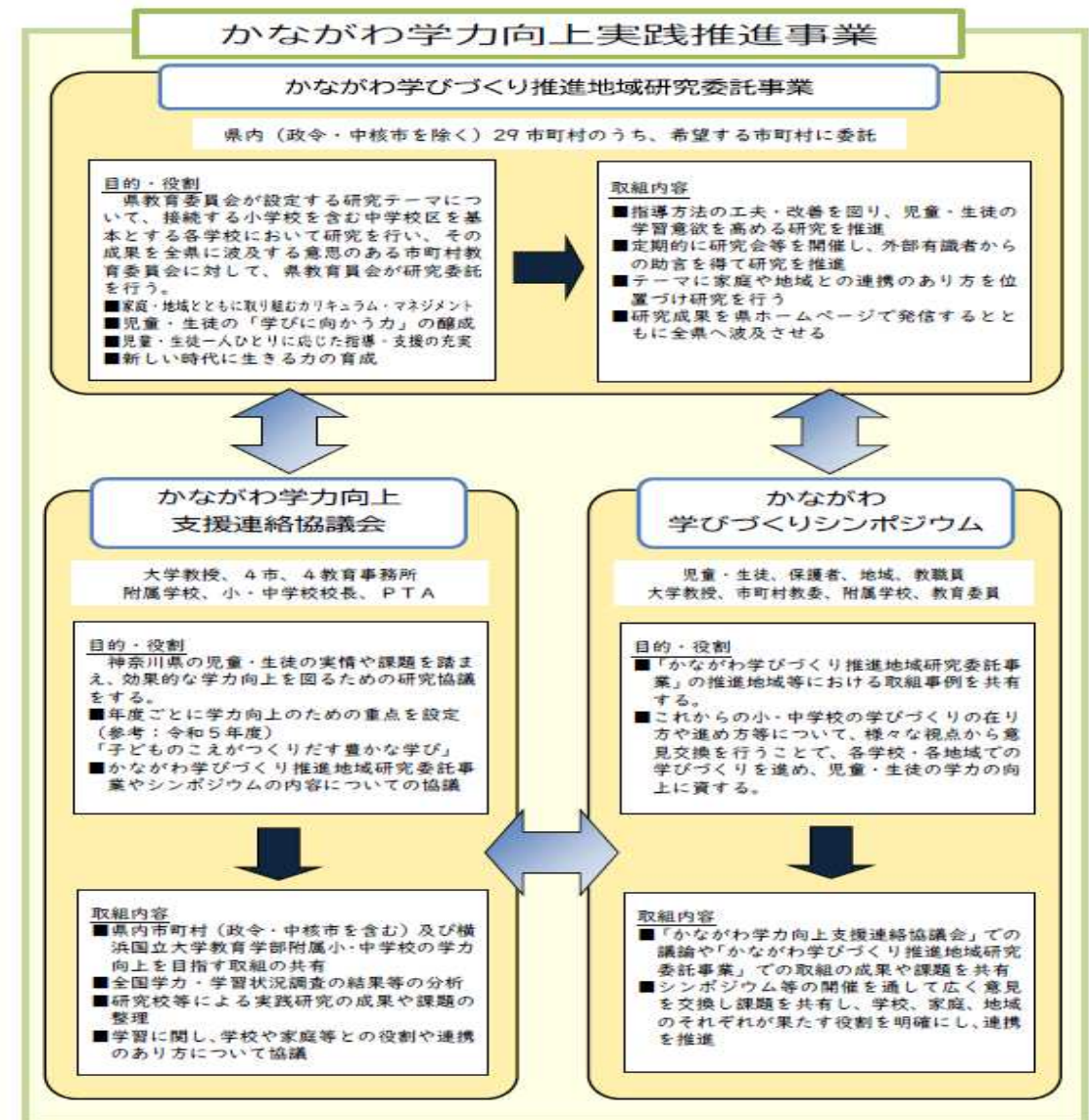
学びづくりプラン



かながわ学力向上支援連絡協議会

2026

神奈川県教育委員会では、「かながわ学力向上実践推進事業」を平成20年度から実施しています。この事業は、平成19年4月に始まった全国学力・学習状況調査の調査結果等の分析をとおり、今後の指導の改善につなげることを目的とした有識者を中心とする「神奈川県検証改善委員会」の報告をもとに始まりました。本事業では、下図のように、3つの取組（かながわ学力向上支援連絡協議会、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業、かながわ学びづくりシンポジウム）を連動させて実践研究を進め、その成果を全県へ周知しています。



令和7年度かながわ学びづくりシンポジウム 令和8年1月31日(土)開催



会場とオンラインを合わせ、180名を超える参加がありました！

県教育委員会では、学校教育、家庭教育、地域の教育力の向上に資するため、それぞれの役割や協働した環境づくり等について広く意見交換をするシンポジウムを毎年開催しています。

令和7年度は、会場とオンラインのハイブリッド開催とし、「子どものこえがつくりだす豊かな学び～わたしたちの「こえ」が「かたち」になるとき～」をテーマに、子ども・大人がそれぞれの立場で、「豊かな学び」について語り合いました。

神奈川県ホームページも御覧ください!!



「令和7年度かながわ学びづくりシンポジウム」の概要

基調講演「子どものこえがつくりだすかながわの学び」—子どもの「こえ」を「かたち」にするために—
横浜国立大学教育学部教授 青山 浩之 先生

- かながわ学びづくり推進事業は、授業の中で「子ども同士の学び合う力」を育成し、学びの質を向上させるため、指導方法の工夫・改善、研修・研究に努める、という「ねらい」のもと、平成19年度から進められてきた。
- このシンポジウムは、繰り返し成果と課題を問いつつ、「模索期」「探究期」と続く中で、学びづくりから「つながりづくり」へ、情報・課題の共有から「行動の共有」を提唱し、「継承・発展期」へと続けられてきた。そして、個々が自覚し、参加する段階へ移行してきている。
- 「こえ」とは子どもが“いま、ここに、どういるか”がにじみ出たものである。昨年度のシンポジウムでは、こえが「届く」とはどういうことをみんなで考えた。今年度は、学びや環境を動かした状態、「かたちになる」ということまで進めていきたい。「こえが『せかい』を震わせる『届く』」から「こえが『せかい』を少し変える『かたちになる』」へするために、互いの「こえ」を確認し合って、大人も子どもも学びに参加し、対話をしていくことが大切。そして、この経験が、子どもたちの自己肯定感や主体性の根幹となる。



こえが「かたちになる」とは



参加者から（アンケートより抜粋）

- 話し合いのテーマについて考えるときに、毎回自分の経験を振り返ったり自分の場合に置き換えて考えていたりしていたことから、やはり「体験」して学んだことは記憶に残り、その後活用して次の学びにつなげることができると気づきました。〈高校生〉
- 小1の娘と参加しました。我が子は、発言が苦手なタイプなので、ディスカッションでは有意義な言葉を交わすことが出来ず。しかし、娘の声にならない「こえ」を汲みとろうと話しかけて下さったグループの皆様、ありがとうございました。〈保護者〉
- 教えるのではなく、自分で気づいて楽しく学ぶことの大切さを小学生や高校生の「こえ」を直接聞いて気づくことが出来た。〈大学生〉

参加者による「みんなでディスカッション」

テーマ①「気づいたら、こんな時間になっていた！」



マンガを読んでいたら、塾の時間になっていた！

部活の皆でテニスしたりごはんを食べに行ったりしたら1日経っていた。



テーマ②『「自分から」学びたいのはどんなとき？』



「楽しい」「おもしろい」と感じたとき。

小さい頃に知らない言葉を辞書で引いて親に教えていたという経験が、今でもしみついています。



今日の参加も、知りたい調べたい学びたい気持ちからです。小学校の支援員を始めたので、子どもの気持ちにもっと寄り添えたらと思っています。私もあのときはそうだったなあ」と納得したり、自信を得たりしたいから、学んでいます。



テーマ③「自分が成長を感じるのはどんなとき？」

成長できたと思うのは、友だちがいままでより増えたこと。仲良くできる幅が少しずつ広がったような気がする。



部活でできなかったことができるようになったことで成長を感じます。成長することで自己肯定感が上がり、さらに成長するきっかけになると思っています。だから、お互いに成長を認め合い褒め合える環境をつくることも大切なのかなと思います。

テーマ④『「豊かな学び」のために何を？』



「豊かな学び」のために、大人には引っ張ってもらわなくて、支えてほしい、背中を押してほしい。自分がやろうとしていることに協力してほしい。

学童保育で働いているので一緒に生活している子どもたちに、今何をして遊びたいか、おやつで何を食べたいか選択肢を与えてあげたいと思いました。グループで話しあってもらう機会もありますがなかなか発言できない小さなこえに気づき、大人が耳を傾けて手助けしていく支援をしていきたいと思っています。



コメンテーター

横浜国立大学教育学部	青山 浩之 教授
同	池田 敏和 教授
厚木市立小鮎小学校	江上 純子 校長
座間市立相模中学校	小川 雅嗣 校長
神奈川県PTA協議会	小林 真希 顧問
横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校	齊藤 洋介 教諭
川崎市教育委員会	岡田 智弘 指導主事
神奈川県教育委員会	向笠 弘子 教育指導員